



稲毛 明 議員

猿害対策の向上を

【質問】 阿賀野市で猿の被害が出はじめた平成18年より4年ほどたった。今年も連日のように出没し、被害状況が報告されており、290号沿線は全域にわたっている。

【回答】 市の自治体の取り組みを聞くにつれ、当市の取り組みの遅れが目立つように思われるので次の3点について伺う。

この間の取り組みの状況と成果について。

【回答】 関係25自治会と行政、猟友会、農協、農業共済等で「市猿害対策連絡会議」を平成19年に結成し、国の支援制度も活用し、対策をとっている。2頭のメスザルに発信器をとりつけ、行動範囲、経路、被害状況の把握に努めている。また、緩衝区域の設定、忌避剤（狼の尿）の試験的使用を行っている。

【質問】 市として、独自のチームを結成する考えは。（モンキードッグ、追い払い隊とか）

【回答】 市民で離職された方2名を雇用して、パトロールや追い払い業務、情報提供をしたい。

【質問】 市職員に狩猟免許を取得させ、体制の充実を図れ。

【回答】 職員の免許取得は慎重に検討したい。地域住民から希望者を募り、わな猟免許の取得に対し

て支援を次年度に向け検討する。併せて、駆除活動にご尽力いただいている猟友会笹神分会に対しても支援策を検討する。市としての被害軽減策を講じたので、地域住民の方よりも里山の整備、追い払い隊の結成、農作物の適正な収穫作業、防護ネットの設置、自己防御対策にも努めていただきたい。



猿の被害にあったカボチャ

◆その他の質問◆ 水原郷病院の今後についての考えは。（市民参加の協議会の立ち上げ、採用状況は）



遠藤 智子 議員

歴史、文化資源の保存と活用の向上を

【質問】 笹神地区郷土資料館には、歴史的に重要な文化財、民具などが収集、整理、展示されているが、事業評価プロジェクトの判定では開館コストが高いので、「開館日の縮小」とある。資料館等の目的は人づくりのための教育を担っているという理解し、開館日の縮小よりも入館者増を図る施策検討が必要では。

【回答】 阿賀野市の文化遺産の常時公開は市本来の責務と認識し、コスト低減による開館日の縮小は、見学者の選択肢を狭め、子ども達の学習活動への影響が懸念される。極力開館日の縮小はさげたい。入館者増につながる方法等、県文化行政課と協議を開始した。

【質問】 早期の移転が望ましいとの中で、現在地での改善、運営は無理との判断に至った理由は。

【回答】 「生涯学習施設再編整備計画」の素案づくりの中では、既存施設への移転がベターとの意見が多いが、最終決定ではない。

【質問】 多様な視点から検討し、移転となった場合、資料の収集、展示に尽力された地元の方々意向、協議が大切と考える。現時点での移転予定箇所の検討について。

【回答】 移転の可能性が高くなった場合、決定前に地元との協議は

不可欠と考えている。「生涯学習施設再編整備計画」の素案づくりの段階では、展示は「笹神支所」の収蔵は「廃校となった小学校」を考えているが決定事項ではない。

【質問】 移転となった場合、笹神支所を総合的な文化会館と位置づけし、歴史資料や絵画、伝統民芸品も紹介できる施設としてはどうか。

【回答】 移転ということになれば、現在の展示に加え、各公共施設等に散在している美術品や歴史資料なども一堂に展示したいと考えている。



山賀 清一 議員

阿賀野市振興策は

【質問】 将来の為に、いい政策を開発、創造し、住民の福利厚生を増進することは行政面で最も重要なこと。市は今後の青写真をどう描いているのか。市民の要望要求は多岐にわたり市の活性化と併せ健康で健全育成を柱に、屋外陸上競技場400Mトラック、プール建設を早急に立上げるべき。また体育協会が市から独立して数年経過、多少なりとも行政の手助けと言ふ趣旨のもと自主運営に踏み切り、

各団体指導者、父兄の懸命の努力で活動展開。社会状況の変化等で賛助会費、市補助金の大幅カット。このことで関係者に無理が生じ体力の限界、消化不良状況。市として認識を新たに大幅な財政措置で増額をする。まちづくりを考えた時将来を見据え方向性を誤ることなく、また逆行することなく前向きに行政能力を発揮すべきと考える。

【回答】 自主的運営体制でスポーツ振興に大きな役割を担って頂き、市として評価認識をしているが財政事情に鑑みてのことで大変申し訳なく思っている。直ちにとはいかないが状況を待って考えており、外郭団体である以上、行政民間分担で現行でお願いしたい。



山崎 正春 議員

国道49号阿賀野バイパスの遅れの原因と開通は

【質問】 20年ぶりに再開された阿賀野バイパス8・1km区間、毎年14億から22億円の工費が配分され、早期の開通が期待された。ところが道の駅が中止された21年度からは3分の1の7億円、22年度は僅か14分の1の1.6億円である。総額250億円の阿賀野バイパスはいつ開通できるか想像すらでき

きない。現道は1日2.1万台以上の交通量があり、バイパスの1日も早い開通が本市の発展と活力ある「まちづくり」、それに県産業団地の企業誘致に大きく寄与できると思う。

【回答】 市長はこの現実をどのように考えているのか伺う。

【回答】 要因は道の駅の中止と私の努力不足も一因。阿賀野バイパスの進捗率は41%、投資額は92億円で用地買収は44億円と99.6%完了している。

【質問】 国の公共事業の見直しと阿賀町の揚川バイパスが24年開通を目指し、予算が集中していることが要因と思われる。

【回答】 今後は、道の駅計画の再構築と市民交流エリアの整合性を図るため国道事務所と協議を進める。また、期成同盟や促進協議会、県道路整備協会等を通じて、促進を図るため強く要望活動を実施す

人間の命を大切に

【質問】 21世紀は人権の世紀。市は本年度の熱中症対応十分であったか。自殺者が10年以上、3万人以上で阿賀野市も長年県内でワースト何ぼ。この件は行政範囲で十分防げる、怠慢とも言える。単純に数字のみを捉えるのではなく、起因する原因を追及せず対応策が遅れているが、関係機関を通じたケア組織はあり、更に司法の支援や市として補助金を付け弁護士事務所誘致すべき環境を整える事が先決であるがその考えは。自殺者は予兆あり、周りは、そのサインを察知可能、強力支援体制を構築すべきと考える。

【回答】 関係機関で徹底したケアを行い実態調査及び共有化を図り情報交換を行い、被害内容を的確に把握し自殺者を一人でも少なくする支援を行って参りたい。

【回答】 それに北陸地方整備局や新潟国道事務所の担当課長等から現地を視察後、市民の熱い思いを直接聞いてもらえる「市民集会」等を開催して、予算規模の拡大と工事の進捗率の加速並びに早期開通を要請する予定である。



阿賀野バイパス黒瀬地内の法線内盛土